

和光市古民家愛好会

代表者	井上 明次
所在地	〒351-0111 埼玉県和光市下新倉2-33
設立年月日	2006年4月1日
URL	homepage2nifty.com/niikura-minnkaen/index.htm

「新倉ふるさと民家園」の概要と「和光市古民家愛好会」の沿革

旧富岡家住宅は、昭和63(1988)年7月、東京外環自動車道建設に伴い地元有志の皆さんの手で解体され、同年9月に富岡氏から和光市へ部材一式が寄贈されました。調査の結果創建時期はほぼ300年前と推定され、埼玉県内で現存する最古の部類に入る民家であることから、平成15年に市指定文化財となりました。その後、平成18年3月に復元「新倉ふるさと民家園」と命名され、6月から一般公開されています。桐材、栗材を多用した細い柱を一間間隔に立て、太い梁を組んで屋根を支える古式の建築構造で刃の削りの痕もみられます。

復元工事と併行して、教育委員会が行った文化財サポーター養成講座を受講した市民は、我々の手で「新倉ふるさと民家園」を管理運営しようと和光市古民家愛好会を立ち上げました。

和光市古民家愛好会は市から管理運営業務を受託し、日常の管理業務及び行事等の企画から実施まで一切の運営を行っています。会員(サポーター)は50名で古民家を愛し、来園者の方々との交流を大切にしている人達です。



新倉ふるさと民家園 (平成18年3月復元)

「活動内容」

・古民家の管理

茅葺き寄せ棟造りという構造の古民家は屋根の茅葺きに虫が発生しやすく、駆除のために囲炉裏は毎日焚いています。囲炉裏は珍しく土間境に作られ、煙で燻された梁、柱は300年の歴史を物語



草履作り：毎週木曜日午前中に佐藤忠男さんのわら工房が開かれている

っています。約2,000㎡の園内には多くの種類の樹木や草花がありますが、雑草取りや木の剪定も定期的に行い、常にすっきりと整備されています。

四季折々の草花の中で、春に咲く絶滅危惧種のヒロハアマナは特に大切に管理しています。石積み



ヒロハアマナ：絶滅危惧種のヒロハアマナ、21年3月中旬に11輪の可憐な花が咲いた

には収穫祭を行います。湧き水の池にはメダカが元気に泳ぎまわっています。

・行事等の開催
伝統的な季節行事を中心に、年に30数回の行事や

体験教室を企画し実施しています。第2回文化財サポーターフォーラムのポスターが縁で交流し始めた、京都の祇園祭・南観音山保存会とは草履作り教室の写真がきっかけでした。山を曳く人達が履く藁草履を会員の佐藤忠男さんが編んで贈りました。そして草履は祇園祭で晴れのデビューを果たしました。藁で編んだ縄のように、長いお付き合いになるようにしたいものです。

音響設備が全くない民家園の土間で日本伝統芸能の箏演奏会も開催します。農機具を舞台装置に仕立てて、照明は裸電球一つ。お箏が奏でる音色は、時には繊細に、時には激しく、心に沁み入るように皆さんを魅了させます。

・市との協働

和光市は市民と行政の「協働」を強く推進しています。新倉ふるさと民家園の管理運営は、協働事業の一つとして注目されています。毎月行っている「古民家連絡調整会議」では、お互いに忌憚のない意見を交わしています。市と古民家愛好会は、お互いに信頼、協調の精神の下に真の協働事業を目指しています。

「今後の展望」

子供から大人まで、多くの市民が300年前の暮らしを感じながら楽しく集う場になるように努力します。また、まちづくりの拠点の一つとして諸々の市民団体やサークルとの交流も進めていきます。

近隣の市の文化財担当部署との連絡、連携を行政と一緒にしながら、近い将来には「古民家サミット」を開催できるようにしたいものです。



箏演奏：昔の農具を背景に箏と尺八の共演



囲炉裏：燻蒸のために夏でも火をいれる